

事例 6 地域の団体・企業と連携した生物多様性保全活動 (関東森林管理局 利根沼田森林管理署)



(写真提供：沼田市役所 環境課)



(写真提供：沼田市役所 環境課)

- ・群馬県^{ぬまた}沼田市 ^{かししょうざんへい}迦葉山内350ノ1 国有林
- ・(左) 湿原を保全するためのシカ防護柵設置(令和7(2025)年6月)
- ・(右) 協議会による自然観察イベント(令和7(2025)年7月)

利根沼田森林管理署では、地域住民・団体や自治体、企業など多様な主体と連携した自然再生活動等に取り組んでいます。

令和7(2025)年6月には、同署と沼田市、利根沼田自然を愛する会、民間企業から構成される「多様な活動の森(森の博物館玉原)運営協議会」との間で、ブナ林や玉原湿原を含む128haの国有林野を保全するために「協定締結による国民参加の森林づくり」制度に基づく協定を締結しました。

協議会では、この協定に基づき、遊歩道の刈払い、食害を防止するためのシカ防護柵の設置、オオハンゴンソウ等の外来種駆除等を実施しています。こうした協議会の取組が評価され、活動区域は同年12月に、「森の博物館 玉原」として地域生物多様性増進法に基づく「自然共生サイト」に認定されました。

同署では、引き続き、地域の多様な主体との連携の下で生物多様性の保全が図られるよう、技術指導や助言等の支援に取り組んでいきます。